園評価の結果について

学校法人　北邦学園
菊水いちい認定こども園

令和４年度に実施した菊水いちい認定こども園の自己評価の結果の概要は、次の通りです。

建学の精神　『自然から学ぶ』

１　本園の教育目標

◎思いやりのある子
◎考え工夫する子
◎明るくたくましい子

【学年のねらい】

０歳児　保育教諭と触れ合う中で安心感を得て、様々なものや友達に興味をもつ

１歳児　保育教諭や友達と関わりながら遊ぶ中で、自分の気持ちを表現する楽しさを感じる

２歳児　様々なことに興味や関心をもち、自分の気持ちを表現したり、
友達と関わったりする楽しさを感じる

３歳児　様々な遊びや活動の中で、自分の気持ちを存分に表現したり、
友達と一緒に遊んだりすることを楽しむ

４歳児　いろいろな友達との遊びや活動を通して、自分の気持ちや考えを表現したり、
意欲をもって取り組んだりすることを楽しむ

５歳児　様々な活動に意欲的に取り組む中で、見通しをもって自分で考えて行動したり、
友達と協力して活動を進める充実感を味わったりする

自己評価	評　価　内　容
B	・今年度もコロナ対策は講じつつの園生活だったが、乳幼児期に必要な経験を大切にしたい場面（友達と身を寄せて遊ぶなど）とのバランスを取ながら保育を実践することができ、ねらいはおおむね達成できたと考える。

（A：成果が上がった。　B：ある程度成果が上がった。　C：もう少し努力が必要。　D：改善が必要。）

２　重点的に取り組んだ目標・計画について

（Ａ：成果が上がった。　Ｂ：ある程度成果が上がった。　Ｃ：もう少し努力が必要。　Ｄ：改善が必要。）

目標/計画	自己評価
「いちいの保育」について理解を深める 自己評価：Ｂ	・各学年が期ごとにじっくりと時間をかけて現行のものを見直し、変更あるいは訂正作業を進める中で、子どもの育ちや保育教諭の援助、環境構成等についての学びを深められたのは良かった。 ・環境構成や援助の意図について、毎日の打ち合わせの際に確認する機会を多く設けた。保育のねらいに対する手段は幾通りもあり、保育教諭の個性やアイディアでどんどん魅力ある活動にしていけることは共有できたと思うが、次年度以降もねらいや意図を丁寧に確認しながら保育の立案を行っていく。 ・子どもの育ちを認め大切にすること、そして課題に向き合うことを改めて確認（指導）したが、次年度も引き続き「子どもの姿を肯定的に捉えること」「子どもの課題は成長に伴うものであること」を常に念頭において子どもと向き合えるようにする。
預かり保育と ２号児保育時間の 充実とメリハリ 自己評価：Ｂ	・毎日決まった時間に点呼をし、時間的な区切りを意識した。子どもなりに時間を意識したり、生活に見通しをもったりする姿が見られたので、効果的だったと考える。 ・預かり/２号児保育時間は、異年齢での関わりを中心に教育時間との差別化を図っているが、楽しく盛り上がる活動が多く、家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごす時間が少ない。 また、週末（金、土）の午後は疲労も溜まってくるので、特に活動内容を考慮しなければならないと考える。 ・長期休み期間の活動について、通常の教育保育日と大きな違いがないのだが、一日の保育時間が長いことやその期間が長いことなどを生かした活動内容を工夫していく事が今後の課題と考える。 ・点呼の時間や教育時間からの移動（移行）時の流れ（身支度や荷物の準備等）が定まり、子どもが「何をどうすれば良いのか」を考えながら行動するようになった。特に預かり/２号児保育が始まる時刻を定めたことが、子どもの気持ちや活動（行動）の良い区切りになったと考える。
玩具や絵本について 学びを深める 自己評価：Ｃ	・子どもの育ちに応じた、あるいは育ちを引き出すような玩具の選定の選定を心がけてきたが、玩具についての学びはまだまだ積み上げが必要だと思う。 ・子どもの育ち（学年）の応じた、「触れる」「試す」「考える」などのことを楽しめるよう玩具の選定をしてきた。改めて子どもの心身の発達についての学びを深めることが不可欠であると感じた。 ・Ｒ４年度から「絵本×保育　実践者育成研修」と名称、取り組み方を変更し、研修を実施した。各園から代表者が参加し、継続的に研修を重ねることで学びを深めると共に、研修をまとめた動画を作成し、他の保育教諭とも学びを共有できたは大変良かったと思うが、研修が終了するたびに代表者による学びの共有の場を設けると更に良かったと考える。
新型コロナウイルス感染症対策を講じながらも、充実した園生活を送れるよう活動や環境を工夫する 自己評価：Ａ	・手洗い、うがい、手指消毒、換気、消毒等を基本対策とし、保育を立案した。学年ごとに集まる集会などは密集や密接を避けられるよう環境を工夫したが、それ以外の場面では乳幼児期ならではの他者との関わり、触れ合いを楽しむ姿を大切にするなど、メリハリのある対策ができたと考えている。

３　今後取り組むべき課題

課　　題	具体的な取り組み方法
預かり・２号児保育の 保育の工夫 （日々の保育/長期休み）	・教育時間との差別化を図る。 ・園バスを利用した園外保育を実施する。 ・子どものアイディアを生かし、工夫したり発展させながら継続的に取り組む活動を取り入れる。
環境（ゾーン）の 見直しと工夫	・各ゾーンでの子どもの遊びを把握する。 ・遊びへの意欲を引き出せるような環境が整っているか確認する。（季節や子どもの興味、関心が反映されているか等） ・子どもが遊びを工夫したり発展させたりすることができる準備（教材/教具）がされているか確認する。 ・子どもがじっくりと遊びこめる環境を整える。
玩具の見直し	・各学年の玩具について、意図を確かめると共に子どもの成長を促す玩具について考える。 ・専門書等を参考に、手作りの玩具を増やす。